www.printo.it/pediatric-rheumatology/JP/intro

BLAU

版 2016

3.日常生活

3.1病気のために子どもと家族の日常生活にはどういう影響がありますか？

患児や家族は、この疾患が診断されるまで様々な問題に直面するでしょう。一度診断がついた後は、疾患の活動度や薬の調整をするために、小児リウマチ専門医や眼科医へ定期受診する事が必要になります。関節病変が進行した場合、あわせて理学療法が必要になることがあります。

3.2学校についてはいかがですか？

疾患は慢性の経過をたどるため、通学や学校生活に支障をきたすことがあります。正常な学校生活を送るには、疾患の良好なコントロールが非常に重要です。学校で起こりうることを知らせておくことは有用で、特に症状が出た時どうしたらよいかについてのアドバイスは大切です。

3.3スポーツはできますか？

Blau症候群の患者に運動することを推奨します。ただし、疾患の活動性により運動制限を導入します。

3.4食事についてはいかがですか？

食事制限などはありませんが、ステロイド内服中は特別甘い物や塩分の多い食事は避けましょう。

3.5天候は病気の経過に影響しますか？

影響しません。

3.6予防接種を受けることができますか？

ステロイドやメトトレキサート、TNF-

α阻害剤による治療中の生ワクチン以外のワクチンを受けることができます。

3.7 性生活、妊娠、避妊についてはいかがですか？

Blau症候群の患者において、疾患による妊孕性の問題はありません。メトトレキサートによる治療を受けている場合、胎児に対して副作用をきたすため、適切な避妊を行う必要があります。TNF-α阻害剤と妊娠の安全性に関するデータはないため、妊娠を希望する場合は薬を中止しなければなりません。一般的に、予め治療法の選択をおこなえる計画的な妊娠を考慮したほうがよいとされています。